

商工經濟日誌

(自昭和三年六月十六日
至昭和三年九月十五日)

(四〇四)一一四

内國の部

六月十六日(土)

▲全國米穀取引所幹事會及全國取引員
委員組合米穀取引稅全廢に付聯合協議會開催決議
案及運動方法決定

▲國際労働會議最終總會

十七日(日)

▲大同電氣龍業解決

十八日(月)

▲正金爲替建値對米四十六ドル八分五

(八分二)引下

▲張學良氏奉天督辦就任

十九日(火)

▲大阪組合貯蓄銀行預金利子引下反對意

見一致

二十日(水)

▲中旬貿易入超九百六萬壹千圓

▲日本製紙聯合會七月中操短率一割(二分)に緩和決

定

二十二日(金)

▲八幡製鐵所九州製鋼會社工場借入契約

成立

▲樞密院治安維持法改正第六回精査委員會緊急勅令

案五對三で可決

二十三日(土)

▲大阪市債貳千七百萬圓募集引受者大阪
公金取扱シンゲクト銀行團と契約成立正式調印

二十五日(月)

▲東株長期引渡高銘柄百三十種株數三十
万二千三百四十株代金貳千參百八拾壹萬五千參百
八拾圓

二十六日(火)

▲正金爲替建値對米四十六ドル八分三
(八分二)引下

二十七日(水)

▲遞信省簡易保險積立金七千五百萬圓貸
付目的及利率發表

二十八日(木)

▲樞府臨時本會議續會治安維持法改正緊
急勅令案附議討論の結果(廿四對五)希望條件附可
決

三十日(土)

▲大藏省銀行土曜日半休認可決定七月十
日實施▲下旬貿易入超百拾壹萬八千圓上半期間入超額貳億
參千九拾六萬八千圓(前年比較五千八百七拾八萬
圓減少)▲大日本麒麟及麥酒鐵泉三社賣價協定成立七月一日
實施

七月三日(火)

▲大阪銀行集会所組合銀行營業時間平日
廿分延長及土曜日半休十日實施決定

六

日(金)

▲東京手形交換所臨時總會土曜半休十四
日實施決議

七

日(土)

▲正金爲替建値對米四十六ドル四分一引
下

八

日(日)

▲全國米穀取引所及取引員組合聯合大會
米取引稅全廢要求決議期成同盟會組織

十

日(火)

▲上旬貿易初出超貳百四拾五萬六千圓
▲田中兼攝外相日支通商條約破棄反對閣
議で言明

十三

日(金)

十四

日(土)

▲農林省發表七月一日現在内地殘存米二
千三百五十五萬五千九百九十九石(前年比較二百八十八萬
一千四百四十四石増)

十九

日(木)

▲紡績聯合會委員會十一、十二兩月現行操短繼續決定
分一) 引下

二十

日(金)

▲中旬貿易入超貳百九拾壹萬四千圓
▲正金爲替建値對米四十五ドル四分三(四
分一) 引下

二十四

日(火)

▲大正製糖三菱商事に八月一日以降五年
間内地販賣委託契約成立

二十五

日(水)

▲經濟審議會設置閣議決定
▲預金部所持短期公債額面貳千四百六拾
二十六日(木)

二十六

日(木)

商工經濟日誌

六萬參千八百圓と日銀所持長期債貳千五百八拾五
萬五千圓交換

二十七日(金)

▲東京綿絲長期市場當限渡品不足の爲相
場狂騰一時立會中止後解合成立

二十八

日(土)

▲正金爲替建値對米四十五ドル二分(四
分一) 引下

三十

日(月)

▲預金部所持短期債(四十二回五分利)對
日銀所持長期債(舊銀融通交付公債)第二次交換實
行

三十一

日(火)

▲下旬貿易出超四百四拾壹萬七千圓
▲床次竹二郎氏民政黨脫黨新黨樹立聲明
書發表

八月

日(水)

▲芳澤公使對日支通商條約廢棄回答覺書南京政府に
送達

二

日(木)

▲日華經濟協會創立總會々長谷口房藏副
會長深尾隆太郎、喜多又藏三氏決定

三

日(金)

▲正金爲替建値對米四十五ドル四分一(四分一) 引下
▲米穀法第二條米及初輸入制限の件中改正
勅令公布

四

日(土)

▲製糖會社代理店會合精糖市中販賣値段
貳拾壹圓五拾錢協定成立

六

日(月)

▲石炭鑛業聯合會加盟組合全部送炭制限

(四〇五)一一五

第三卷 第四號

(四〇六)一一六

五分擴張承認

七 日(火) ▲東京瓦斯大株主會(二千株以上)事業擴張促進計畫承認

八 日(水)

▲土方日銀總裁三土藏相訪問爲替及公債低落對策通貨統制力回復策協議

九 日(木)

▲人造肥料聯合會操短實施期限(明年一月十五日)六月末日迄延長及本年九月一日以降一月十五日迄三割操短(一割)に擴張決議

十 日(金)

▲上旬貿易出超千參百壹萬八千圓

十一 日(土)

▲日本羊毛工業會創立總會規約役員決定

十三 日(月)

▲正金銀行爲替建値對米四十五ドル八分一(八分二)引下

十四 日(火)

▲簡易生命保險積立金運用委員會第一回貸付二百六十三件貳千五百七拾七百萬圓決定

十五 日(水)

▲セメント聯合會操短率協議九、十兩月最高二割六分十一月三割(現行率最高三割二分)に緩和決定

十六 日(木)

▲正金爲替建値對米四十五ドル(八分二)引下

十七 日(金)

▲正金銀行爲替建値對米四十四ドル四分三(四分二)引下

二十 日(月)

▲中旬貿易出超九百五拾七萬九千圓

▲製紙聯合會十、十一兩月操短率六分(四分)に緩和

二十四 日(金) ▲正金爲替建値對米四十五ドル(四分二)引上

引上

▲大藏省昭和二年度最終國庫現計發表

二十五 日(土) ▲正金爲替建値對米四十五ドル八分二(八分一)引上

分一) 引上

▲農林省八月十五日現在稻作狀況(普通作)發表

二十七日(日) ▲正金爲替建値對米四十五ドル四分二(八分一)引上

分一) 引上

三十 日(水) ▲郵便年金積立金運用規則裁可外六勅令公布

▲正金爲替建値對米四十五ドル八分一(八分二)引下

三十一 日(金) ▲下旬貿易出超千六百六拾七萬圓

▲正金爲替建値對米四十五ドル四分二(八分二)引上

▲日石外四石油會社揮發油協定值段一箱五圓八拾錢に四拾錢引上決定

九月三日(月) ▲正金爲替建値對米四十五ドル八分六(八分三)引上

分三) 引上

四 日(火) ▲東京清算米市場連日暴騰不穩に付後場二節以降立會停止解合を懸念

▲鐵道省二三等一年定期乘車貨銀值上十月一日實施決定

五 日(水) ▲北樺太石油會社對露國サハレンネチフ

トラスト石油交渉成立調印

六 日(木) ▲經濟審議會官制裁可勅令公布

▲大藏省在外正貨補充策協議滿鐵及東拓其他民間外債成立の場合買入不成立又は不足の場合米貨六分利付其他手持外債壹億圓賣却決定

▲東京米穀清算市場後場立會再開相場續伸

▲海事協同會臨時委員會高級海員最低賃銀制原案可決

七日(金) ▲經濟審議會委員及幹事氏名正式發表

▲日本羊毛工業會モスリン部會向三箇月二割五分操短繼續決議

十日(月) ▲上旬貿易出超參百九拾五萬七千圓(前

年同旬比較五百七拾壹萬四千圓減)

十一日(火) ▲正金爲替建値對米四十五ドル八分五(四

分一) 引下

十四日(金) ▲大藏主計局各省豫算新規要求審議終了承認額約四千萬圓

十五日(土) ▲農林省發表九月一日調查夏秋稻豫想結

立枚數千六十五萬八千七百五十枚(前年比較廿萬六千五百五十枚減)

商工經濟日誌

外國の部

六月廿一日(木) ▲インド帝國銀行公定割引歩合六分

(一分)に引下

廿三日(土) ▲イタリ銀行公定割引歩合五分五厘

(五厘)引下

廿四日(日) ▲佛國下院本會議フラン安定法案可決

廿五日(月) ▲魯大司經營山東鐵道沿線淄川炭礦支那人抗夫三千名總罷業開始

廿六日(火) ▲北京を北平に改稱

▲英國下院砂糖輸入稅引上案可決

廿八日(木) ▲獨逸ミューラー内閣成立

▲米國民主黨全國大會大統領候補者アルフレッド・スミス氏選定

廿九日(金) ▲支那全國經濟會議中央銀行設立決議閉會

七月二日(月) ▲北京濟南事件外交後援會全國一致對日經濟絕交決議

七日(土)

▲支那國民政府條約改訂宣言發表

九日(月) ▲南京政府財政會議關稅自主釐金稅廢止決議

(四〇七)一一七

第三卷 第四號

(四〇八)二一八

十三日(金) ▲英國外相チエンパーレン氏下院で日本の對滿洲特殊利益不承諾言明

十六日(月) ▲埃國々立銀公定割引歩合六分五厘(五厘)引上

二十五日(水) ▲米支關稅條約改訂成立調印

二十六日(木) ▲南京政府王外交部長通商條約改正に付強硬意見發表

二十七日(金) ▲マンチエスター紡績聯合會ラムビー紡績罷業鎮壓の爲總ロツクアウト斷行(八月八日實施)決議

三十一日(火) ▲英國外相日本對滿洲特殊利權容認下院で言明

▲ソビエツト財政委員アルカノフ氏當籤付内債五億ルーブル募集發表

八月八日(水) ▲米國農務省發表八月一日調査米綿作物六割七分九厘收穫豫想千四百廿九萬一千俵(前年實收比較百廿三萬六千俵増)

▲南京政府外交部日本以外諸國に條約改訂會議開催を提議

九 日(木) ▲米國農務省發表八月一日調査小麥收穫豫想冬五億七千八百五十九萬九千三億一千二百六十九萬三千合計八億九千九百廿九萬二千ブツセル

(前回比較九千四百廿五萬五千増)

十三日(月) ▲在支英國公使館英支南京事件解決交換文書公表

十七日(金) ▲獨支協約調印

二十一日(火) ▲カナダ統計局發表七月末現在小麥在荷高七千六百四十八萬四千ブツセル(前年比較二千五百八十九萬九千ブツセル増)

廿七日(月) ▲不戰條約(パリ)正式調印正文發表

廿八日(火) ▲南京政府對日通商條約廢棄に關する第二次通牒發表

九月五日(水) ▲ボンベイ紡績會社勞働爭議解決

八 日(土) ▲ベルシヤ國立銀行創立開業

十一日(火) ▲米國農務省發表九月一日現在春小麥作物豫想八割一分九厘收穫三億二千二百四十七萬三千ブツセル(前回比較九百七十八萬増)

十二日(水) ▲オーストラリア全埠頭人夫罷業開始